

播磨町の未来を語る会



②安らぎがあり、健康やかに暮らせる町について
街灯が公共施設周辺に偏っている。補助金を増やし街灯を増やしてほしい。そして空き家に店舗誘致を行えば、犯罪抑止と、経済の活性化につながる。
また、防犯啓発活動を町・警察・住民一体で行うと、子供と大人のコミュニケーションを生み出し

④つながりを大切に
町内のコミュニティ施設にカフェや集いの場を作り、イベント情報を拡散させる。
外国人や高校生が古代衣装で古民家ツアーをする。
石ヶ池公園で南高校の芸術保育類型の生徒が子育て支援のプロジェクトをコーディネートを行い、高校生との交流を深める。

■意見交換において
・漁船に絵を描いた経験がある。播磨町でもやってみよう。
・学生と大遺跡まつりを盛り上げたい。
・大遺跡のPRをもっとするべきでは。
・駅近くの公園のバラはインスタ映える。町内の花を撮影し、言葉と一緒に発信しては。
・新幹線の下で暗い所がある。
・歩道に高低差があり危険を感じる。
・町道浜幹線道路の横断歩道で待っていても止まる車が少なく、看板設置の対策が必要では。
・狭い町で駅が2つあるのは便利である。
・災害時に新島大橋が使用不可能な場合、漁船やプレジャーボートを使い、ピストン輸送をすれば良いのでは。
・農業をもっと大事に、稲美町と土地活用を協力すればよい。

■感想を語ってくれました
始まるまでは緊張していたけれど、話しやすかった。
播磨町はとてもいい町なので住みたいと思っている。

高校生が未来を語ってくれました
12月24日開催
第1回播磨町の未来を語る会
播磨南高校の生徒14名が播磨町議会を訪問し、4グループが提案スピーチを発表してくれました。その後、各グループに2名ずつの議員も加わり、意見交換を行いました。

■スピーチ内容
①豊かな心と人をはぐくむ町について
企業に協力を依頼し、工業に触れる機会を増やしては。
英語教育も必要である。高校生が地域内の外国人と小学校で授業に参加するなど、町の国際化を図っては。

③人や環境にやさしく快適な町について
土山駅の壁にプロジェクトマップを張り、町内外から人を集めるようにして、駅周辺に飲食店や町をPRする施設を増やす。
喜瀬川を清掃し、水辺を生かしたイベントができるようにすれば虫も生息できる住民の憩いの場になり、同時に観光資源にもなる。

■意見交換において
・歩道に高低差があり危険を感じる。
・町道浜幹線道路の横断歩道で待っていても止まる車が少なく、看板設置の対策が必要では。
・狭い町で駅が2つあるのは便利である。
・災害時に新島大橋が使用不可能な場合、漁船やプレジャーボートを使い、ピストン輸送をすれば良いのでは。
・農業をもっと大事に、稲美町と土地活用を協力すればよい。

■感想を語ってくれました
始まるまでは緊張していたけれど、話しやすかった。
播磨町はとてもいい町なので住みたいと思っている。



▲活発な意見交換を行いました

土山駅周辺整備は

町長 官民協働のまちづくりを目指す

政風会代表
藤原 秀策



▲整備が待たれる土山駅前道路

問 土山駅前の地籍調査はいつ終了するのか。また、その後でなければ整備事業は始まらないのか。
答 最終工程である登記完了予定が令和4年度である。地域の合意形成が進めば、官民協働のまちづくりを進めたい。
問 改築するプールの共用は町長 小学生と中学生の共用可能か。
答 播磨南中と播磨南小のプールを改築し、統合予定であるが、小学校低学年と中学生との共用は可能か。
問 一つのプールで小学

問 コミュニティバスの運行に対する代替策として、75歳以上の高齢者にタクシー券を交付し、高齢者の社会参加を推進するとある。75歳以上に限定した理由、対象者数、一人当たりの限度額、具体的な周知の方法は。
答 移動が困難になり始める後期高齢者を対象にした。
対象者数は4673人で、限度額は一回につき500円利用できるタクシー券を12枚、年間6000円分である。周知の方法は個別に申請書を郵送したいと考えている。

校低学年、高学年および中学生が使用できる段差型を考えている。水深も低学年用で0.7メートル、高学年および中学生用は1.0から1.2メートルとし、共用可能な水深としている。
町長 時限的にタクシー券を交付

安心ボタンを利用しやすく

日本共産党代表
野北 知見



尾崎理事 近隣協力者は減らす方向



▲現在の安心ボタン

問 国民健康保険税は他の健康保険制度に比べ高
町長 低所得世帯の減額措置は拡大
問 今年度廃止される安心ボタンに代わり、新たに緊急通報システムが構築されるが、現在の安心ボタンでは、3人の近隣協力者が必要で普及が進まなかった。新たなシステムでは、その点は改善されているか。
答 新たなシステムは、現行に近いものを考えており、近隣協力者は減らす方向で検討する。

問 国民健康保険税は他の健康保険制度に比べ高
町長 低所得世帯の減額措置は拡大
問 今年度廃止される安心ボタンに代わり、新たに緊急通報システムが構築されるが、現在の安心ボタンでは、3人の近隣協力者が必要で普及が進まなかった。新たなシステムでは、その点は改善されているか。
答 新たなシステムは、現行に近いものを考えており、近隣協力者は減らす方向で検討する。
問 今年度廃止される安心ボタンに代わり、新たに緊急通報システムが構築されるが、現在の安心ボタンでは、3人の近隣協力者が必要で普及が進まなかった。新たなシステムでは、その点は改善されているか。
答 新たなシステムは、現行に近いものを考えており、近隣協力者は減らす方向で検討する。

く負担が大きい。特に年収400万円の夫婦と子ども2人の4人世帯では、町職員が加入する共済保険料と2.2倍も差がある。
せめて子どもの均等割を減免して負担の軽減を図る考えは。
問 保険税率については、県から求められる納付金が増える傾向にあるため据え置く。
しかし、低所得世帯に対しては均等割額および平等割額の減額措置を拡大する。
問 ごみ減量化の取り組みは、ごみの減量化の取り組みについての方策は。
答 食品ロスや生ごみの水切りについて啓発を進めていく。
増加している粗大ごみについては、啓発だけでは解決できないと認識しており、具体的な抑止方法を研究していく。